

京都フィロムジカ管弦楽団

第39回定期演奏会

諸井 三郎 / こどものための小交響曲

シベリウス / ヴァイオリン協奏曲

1904年オリジナル稿(初稿) ※関西初演

ブゾーニ / 交響組曲



ヴァイオリン独奏

馬淵 清香



指揮

山本 貴嗣

2016年6月26日(日) 八幡市文化センター(大ホール)

午後1時開場 2時開演

<http://www.yawata-bunka.jp/center/access/index.htm>

1時15分よりロビーコンサートを開催いたします

前売券:800円(当日券:900円) 全自由席

<http://www.kyotophil.com/>

【チケット取り扱い】


八幡市文化センター、JEUGIA(三条本店3F、APEX弦楽器)

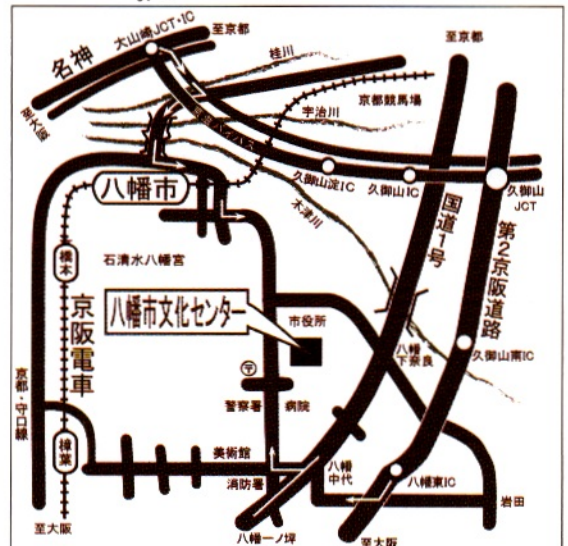
京都芸術センター(窓口販売のみ10:00-20:00)

ホームページでのご予約も可能です。

【お問い合わせ】 070 - 6505 - 4032 ticket@kyotophil.com

後援: 八幡市
八幡市教育委員会

 **KYOTO ART CENTER** 京都芸術センター
制作支援事業



京阪・八幡市駅バスターミナル1番乗り場よりバスで5分、「八幡市役所」下車すぐ。その他、京阪・樟葉駅からもバスがあります。または京阪・八幡市駅より徒歩20分。八幡市役所のとなり。

● 駐車場は台数に限りがあり、当日駐車いただけないこともありますので、出来るだけ公共交通機関をご利用下さい。

● 乳幼児等就学前のお子様のご入場は親子室(2階)に限らせていただきます。席数に限りがありますが、何とぞご了承ください。

● 係員の指示に従っていただけない場合はご退場いただくことがあります。

近年のフィロムジカ定期演奏会では、客演コンサートミストレスの馬淵清香氏が、特にヴァイオリン・ソロにおいて、艶やかな音色と深い息遣いを持った歌で聴衆を魅了してきました。今回は、馬淵氏が協奏曲のソリストとして登場します。曲は、馬淵氏の魅力が最も発揮されるに違いない傑作・シベリウスの協奏曲です。北欧フィンランドの巨匠の青年時代の作品で、冷涼な空気、妖艶な北欧の空、神話世界の英雄たちが跋扈（ばっこ）するような荒々しさが、若々しい情熱を伴って描かれます。

そして、今回は、馬淵氏の魅力をより堪能できるように違いない、1904年のオリジナル稿（初稿）で演奏します。シベリウスは1904年に協奏曲を初演しますが、ソリストの技量不足から失敗します。そこでソロを中心に大幅に音楽を簡潔にし、翌1905年に改定稿で演奏し成功を収めます。以後、この曲は改定稿で普及しました。しかし今回演奏する初稿には、妖精たちが不意に現れては消えるような不思議さに満ちていて、シベリウスならではの獨創性が溢れています。日本では数回しか演奏されていない初稿ですが、これから再評価されていくでしょう。この初稿の関西初演は、これまでにブルックナーやマーラーの珍しい初期稿を演奏してきた実績のあるフィロムジカだからこそできる偉業です。

後半には、シベリウスと同年代で親友でもあったブゾーニの知られざる傑作・交響組曲を演奏します。神童ブゾーニは、作曲家としてだけでなくピアニストとしても知られ、ドイツなど世界各地で活躍しました。若くしてフィンランドでも教鞭をとり、シベリウスとも親交を結びました。今回演奏する交響組曲は、なんとブゾーニ 16 歳の時の作品です。しかし 7 歳でピアニスト・デビューしたブゾーニにとってはすでに円熟期だったのででしょうか、この交響組曲に若書きの未熟さは全くありません。バッハの影響を色濃く感じさせる爽快感溢れる舞曲集で、しかも単なる模倣を超えて、ロマン派的な力強さをも兼ね備えています。ほとんど演奏機会のない作品ですが、必ずや聴衆を満足させるに違いありません。

また、日本の作曲家を積極的に取り上げてきたフィロムジカは今回、諸井三郎の小交響曲を演奏します。ドイツに留学した諸井らしく、均整のとれた形式美が魅力です。ヒンデミットを彷彿とさせる憧れに満ちた歌が、モーツァルトのような軽快で簡潔な響きで展開されます。戦争のただ中であつた 1943 年の作品で、「こどものための」という副題が付けられています。

指揮は馬淵氏の信頼も厚い実力の持ち主・山本貴嗣氏がフィロムジカ初登場。フィロムジカと同様に知られざる傑作に光を当ててきたマエストロで、同じ志を持つ指揮者と楽団による息の合った音楽が期待されます。

指揮 山本 貴嗣 (やまもと たかし)

大阪大学人間科学部卒。幼少よりピアノとソルフェージュを学ぶ。洛星交響楽団でコントラバスを演奏、大阪外国語大学管弦楽団で学生指揮をつとめた。'95年～'01年 けいはんなフィルハーモニー管弦楽団 音楽監督。この間、同楽団のすべての演奏会とバレエ公演を指揮。'03年より長岡京市民管弦楽団 アドヴァンサード・コンダクターとして、現在に至るまで数多くの演奏会を指揮しており、長岡京音楽祭「国民文化祭記念コンサート」にも'12年、'15年の二度にわたって登場した。バレエ指揮ではプロのダンサーや演出家からの信頼が厚く、近年では「淡路島舞台芸術祭」でチャイコフスキー「白鳥の湖」全幕（コンサートミストレス 馬淵清香氏）、兵庫県芸術文化センターでプロコフィエフ「ロミオとジュリエット」全幕の各公演を成功させた。これまで、ブゾーニの弟子であつたクルト・ヴァイルやスウェーデンの作曲家ベルワルトの交響曲、ソ連の国民的作曲家スヴェリドフやフランス 6 人組の一人ダリウス・ミヨーの管弦楽作品など、演奏機会の少ない作品も積極的に取り上げており、それぞれ好評を博す。

ヴァイオリン独奏 馬淵 清香 (まぶち さやか)

大阪府出身。桐朋学園大学卒業。小国英樹、原田幸一郎、工藤千博、森悠子、田辺良子、岩崎淑、R. プレンゴラの各氏に師事。1990年全日本学生音楽コンクール第1位をはじめ、イタリア・シエナのギジアーナ音楽祭ギジアーナ・ディプロマ賞受賞、コンセルヴィーヴァン・オーデション最優秀賞受賞、イタリア・グッピオ国際 Duo コンクール入選、東京国際芸術協会レ・スプレンドル音楽コンクール室内楽部門入賞など、国内外で多数の受賞歴がある。ソロ・リサイタルの開催のほか、オーケストラ、室内楽でも活躍。「DUO MOON STONES」「四次元三重奏団」メンバー。

管弦楽 京都フィロムジカ管弦楽団

1996年創立。知名度の低い傑作に光を当てる斬新な選曲を身上としており、日本初演・関西初演も多く手がける。遠く北海道や九州からも聴衆が駆けつけるなど、その姿勢は全国的に注目されている。また、若々しい熱気を前面に出した激しい演奏に定評がある。年2回の定期演奏会のほか、依頼を受けての演奏会も精力的にこなす。特定の母体を持たない珍しいアマチュアオーケストラで、団員の本業や出身地は様々であり、関東や東海など遠方在住の参加者もいる。学生オーケストラの経験のない人や大人になってから楽器を始めた人など楽器歴も様々に異なる奏者たちが集って音楽を作り上げている。団名の「フィロムジカ」は、「音楽を愛する」という意味の造語である。

新 入 団 員 大 募 集 中

～私たちと一緒に演奏しませんか？ お気軽に見学にお越しください。団員一同お待ちしております。～

京都フィロムジカ管弦楽団は第40回定期演奏会で、ブラームスが作曲しシェーンベルクが編曲した大曲『ピアノ四重奏曲第1番・管弦楽編曲版』を演奏します。楽器が弾ける皆さん、一緒に演奏しませんか？

●募集パート ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス(ヴァイオリン・ヴィオラ急募!!)
オーボエ・トランペット・トロンボーン / 打楽器(諸条件については要相談)

(参加資格) 練習に出席できること。年齢制限はありません。学生の参加も歓迎します。

(練習日時) 毎週日曜日(午後1時～午後5時) 春と秋に練習合宿(大津市内)

(練習場所) 京都芸術センター、河原町丸太町、伏見区など京都市内各所のほか、大津市など。

(諸費用) 活動費:3,000円/月 合宿費:10,000円程度 演奏会参加費:20,000～30,000円(学生は半額)

Webサイト(<http://www.kyotophilos.com/>)では、過去の演奏曲も紹介しております。是非一度ご覧ください。

入団・見学に関するお問い合わせ先 E-mail: recruit@kyotophilos.com

<お知らせ> 京都フィロムジカ管弦楽団 第40回定期演奏会:2016年12月25日(日)/会場:びわ湖ホール